

第6期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第3回全体会 議事概要

日 時 令和5年3月15日（水）9:30～11:30

場 所 B I Z 新宿3階 会議室A

出席委員 小林委員、金委員、伊藤委員、郭委員、長谷部委員、毛受委員、ゼヤー委員、松田委員、楊委員、李委員、タイン委員、コチュ委員、叔委員、鈴木委員、立川委員、ドウラ委員、原田委員、朴委員、宗像委員、佐々木委員、守重委員、山口委員 22名

欠席委員 申委員、チャン委員、安藤委員、奥田委員、江副委員、ブサン委員、陳委員、センブ委員、井上委員、塚本委員、 10名

1 開会

2 新宿区多文化共生実態調査の概要について

事務局から新宿区多文化共生実態調査の概要について説明し、委員から意見をいただいた。

- ・ウェブ回答を取り入れたことは、よいことである。

3 新宿区多文化共生実態調査の項目について

事務局から新宿区多文化共生実態調査の項目について説明し、委員から意見をいただいた。

- ・年齢の設問について、選択肢が20歳以上で設定されている。外国人留学生には18、19歳もいる。
- ・子どもの年齢区分は、もう少し細かい区分にしてはどうか。
- ・外国人住民用の問「新宿区に住み続けたいですか」について、選択肢「5 帰国の予定がある」は本人の希望に関係なく、ビザとか仕事の関係で帰国することがある。削除してもよいのではないか。
- ・外国人住民用の問「困っていることや不満なこと」について、自由回答欄を設けるとよい。
- ・外国人住民用の問「困っていることや不満なこと」について、銀行で困ったり不満に思うことがあるので、選択肢に「銀行」を追加するとよい。
- ・外国人住民用の問「困っていることや不満なこと」について、「行政等の手続き」とあるが、行政とは区役所なのか出入国在留管理庁や外務省なのか、詰めて考えた方がよいと思う。
- ・外国人住民用の問「偏見・差別をどのような場合に感じましたか」について、選択肢「11 仕事」だけでなく「アルバイト」も加えた方がよい。
- ・問「偏見・差別」の下に自由意見欄を設けて具体的に書いてもらうのも一つの方法である。
- ・外国人住民用の問「日本語に関して困ることはありますか」について、「ある」「ない」の2択ではなくて、例えば「あまりない」とか選択肢を4つぐらいにしてはどうか。

- ・日本人住民の間「生活の中で外国人と話しますか」という文章より、「生活の中で外国人と話す機会はありますか」の方がよいと思う。
- ・日本人住民の調査票の間「外国人と話しますか」について、「話す」「話さない」の2択ではなく、「よく話す」「時々話す」「あまり話さない」「話さない」の4つぐらいに選択肢を増やした方が選びやすいと思う。
- ・日本人住民の間「外国人が住むことで感じること」について、犯罪に関する選択肢がない。意図的に外していないのであれば、公平性を考慮して追加した方がよいと思う。
- ・項目「多文化共生のまちづくり」について、しんじゅく多文化共生プラザの場所や電話番号も掲載するとよいと思う。
- ・問「しんじゅく多文化共生プラザの機能」について、日本語教室や外国人相談の他に、フリースペースを利用している人が多いと感じている。選択肢に「フリースペースの利用」を加えるとよいと思う。
- ・調査票を配る際に、しんじゅく多文化共生プラザのパンフレットを同封してはどうか。
- ・一番困っている人の声を集めることができるのか。「日本楽しい」「仕事もしている」といった簡単な軽い回答が出てくるのではないか。
- ・外国人の回答率の目標が30%であるが、残り70%こそが困っている人だと思う。困っている人は、書ける人に手伝ってもらってもよいと思う。
- ・この調査は、学生に配れば学生なりの課題が見えてくる。高齢者に配れば高齢者なりの課題が見えてくる。
- ・高齢者は調査票が届いても、難しかったり面倒と感じて回答しない人がいる。本当に困っている人の意見をどのようにして反映していくのか。
- ・調査票が長いと感じた。また、「はい」「いいえ」を選んでから別の設問に飛ばなくてはならないので、大丈夫かなと感じた。
- ・調査をして何が分るのかという意見もあるが、取りあえず調査をして、その後どのように対策をとるかが大事である。
- ・ゆうちょ銀行の口座が作れない。どのような調査回答をすれば、日本が聞いてくれるのか。
- ・子どもが親の言うことを聞かず、煙草を吸ったり、お酒を飲んだりしている。このように困っている人はたくさんいる。
- ・ビザ、パサのことで困っている外国人は多い。この調査で国が動くことを期待している。

4 その他

5 閉会